

## 協働のまちづくり推進委員会会議録

会議名称	平成24年度第1回山口市協働のまちづくり推進委員会
開催日時	平成24年7月23日（月曜日）午前14時～16時
開催場所	白石地域交流センター
公開・部分公開の区分	公開
出席者	辻正二委員、中野智昭委員、坂本俊彦委員、松尾征二委員、曾田元子委員、倉田和夫委員、畠山静枝委員、益田徳子委員、板垣幸男委員、倉本守委員、佐光邦靖委員、宮成眞澄委員、井出崎小百合委員、堅田雅子委員、白木美和委員、馬越帝介委員、山本貴広委員、蕨周次委員、南波敏子委員（19人）
欠席者	岡本委員（1人）
事務局	東地域振興部長、有田地域振興部次長、宮崎協働推進課長、熊川協働推進課主幹、村田副主幹、安村主査、濱田主事（7人）
議題等	<p>1 平成23年度地域づくり交付金制度について      2 平成23年度地域づくり交付金を活用した取り組みについて      3 山口市協働推進プラン改訂版（素案）について      4 その他</p>
内容	<p>※要点筆記</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>事務局からのお知らせ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の配布資料の確認。</li> <li>・会議を公開で行うことを了承していただく。</li> <li>・協働のまちづくり推進委員会規則の規定により、議事進行を会長に依頼。</li> </ul> <p>&lt;辻会長&gt;</p> <p>会議内容につきましては議事録を作成し、委員の名前は非公開としてホームページ上に公開させていただくことを提案→了承。</p> <p>本日の会議録署名は、坂本委員、中野委員の両副会長にお願いしたいと提案→了承</p> <p><b>【議題】</b></p> <p>&lt;辻会長&gt;</p> <p>それでは議題に移ります。本日の議題は、大きく分けると「平成23年度地域づくり交付金について」と「協働推進プラン改訂版（素案）について」でございます。まず、「平成23年度地域づくり交付金について」ということで、議題1と2、まとめて事務局より説明をお願いいたします。</p>

<事務局>

資料「平成23年度地域づくり交付金制度について」により説明

<辻会長>

どうもありがとうございました。一昨年から地域づくり交付金制度が始まり、この交付金制度は2年目を迎えます。交付金の使途についてまとめられた地域づくり交付金活動事例集と運営協議会状況概要を事前に見られたのではないかと思います。まだまだ2年目ですし、各地域の自治組織が、すぐにいい具合に走るとは思いません。しかしながら、コツコツ前に進んでいるのではないかと思います。そのあたりで、今日は委員の方々のご意見を参考にしながら、今年度に向けて良いかたちを探していきたいと思います。

そこで、資料をお読みになられて、お気付きになられたところ、どのあたりがよかつたか、あるいはどのあたりをもっと改善したらよいかなどについてお話をいただけたらと思います。

<A委員>

交付金があることで各地域がそれぞれ工夫して使われているなという感想を持ちました。逆にアイディアしだいで自由に使えるということは、皆さん使い方に戸惑われたのではないかでしょうか。交付金のために事業をするというような感じで、何かしたいから交付金を使うというよりは、交付金があって、ではどう使うかという感じに受け取られました。そこで、地域の特性を活かした活用の仕方が分かれば、各地域に独自性が生まれ、交付金をより地域のために使っていけるのかなと思います。

<B委員>

活動事例集を拝見しましたが、事業を行うことによって、こういう仕組みができたとか、今まで地域に全然関わっていなかった人達をどれだけ巻き込むことができたとか、この辺りの成果が分かりませんでした。せっかく他の地域に活用してもらうために活動事例集を作ったのに、「ちょっとここに行って見てみよう」とか、「これどうやってやったのだろう」というようなことはあまり思わなかったです。交付金を使ってこういう問題が解決できたということがよく見えてきました。私が住む地域を見ると、交付金がある前からずっとやってきたことが記載されていたので、どういうことだろうというのが正直なところです。

<C委員>

活動事例集は一貫性がないので見にくかったです。また、どのくらいお金を使ってやったのかということ（地域づくり協議会運営状況）と、どうリンクさせるのかが気になりました。例えば、祭りが①から⑥（①協議会運営②地域振興③地域福祉④安全・安心⑤環境づくり⑥地域個性創出）のどの項目で事業を行ったのか、これかもしれないとい

う予想は付くが、必ずしもこれだとは言えない。事例集をつくるときにどのお金でやったのかというののが分かるともっといいのだろうなと思いました。

運営状況概要に、22年度から23年度のお金の動きについては表とパーセントで表わされていますが、どのくらいの人が事業に関わったのかという、人の動きについても成果指標が欲しかったです。

どの事業にも参加されてない人がいると思いますが、そういう人は課題になっているのでしょうか。まずは、そこまで目をきかさないで事業をつくりあげていくほうが先なのか、どこに着眼しているのかがよく分かりませんでした。

いつも同じ顔ぶれが祭りに出ているのか、全然違うメンバーが参加しているのか、これらのことの方が知りたかったです。もし、そのようなデータがあるのなら見せてほしいです。中身は楽しそうでよくやっていらっしゃるが、交付金を使ってやっていることなので、どのような人が活動に参加しているのかがよく分からるのは残念だなと思いました。

#### <D委員>

私の地域の事例集を見ると、割りと写真写りの良い資料が多いのですが、実際には防犯灯の整備にお金が非常に使われています。インフラの部分を優先的に事業建てできるというのは非常に良いと思います。

しかしながら、先ほど意見の出ました、地域の住民がどれくらい参加しているという部分では、参加者数はグランドゴルフ大会よりもつりのほうが多いです。おそらく仕掛けたお金も多いので、こういった活動事例集をつくるときに、分野ごとにある程度各地域を統一して、比べられるようななかたちの資料があると参考にできるのかなと思います。

それと、やはり法定外公共物に相当な労力が使われています。地域内で法定外の順位付けは必要なこととは思いますが、事業そのものは市なり行政が行った方が有効かつお金の回りも良いと思います。地域ごとに見積もりをとって出すような今までのやり方では無理があります。しかし、それに対応する組織が出来たということなので、地域の要望を出したうえで、市が法定外をやるというかたちでもっとうまく運営できればと思います。ハードな部分よりもソフトな部分で、各地域づくり協議会で知恵をふりしぶるような組織にえていったほうがいいのではないかでしょうか。

まだ組織をつくる段階で、きっと2・3年後にはこの報告書がもっと内容が濃い面白いものになるのではないかと思いました。

#### <E委員>

以前から指摘をさせていただいているが、各項目の決算、地域福祉というところはかなりまずいなと思っております。要するに、社会福祉協議会、地区においては地区的社会福祉協議会が、それぞれの地域の各部会から社協の会費なり共同募金なりの寄付をいただいて地域福祉活動をずっと30年来やってきました。そのような中、報告を見ると地域福祉というくくりが、地域福祉でなかつたり、健康づくりったりスポーツだった

りしています。その区別が非常に難しく、そもそも地域振興と地域福祉という区別が難しいのかもしれません。従来、それぞれの地区なり旧町5か所の社会福祉協議会がやつてきたことと、新たにスタートしてやっていることとの違いが何なのかなというのをもう一度検討しなければなりません。それぞれの地区社会福祉協議会と旧町の支部にもなっている社会福祉協議会は、事業報告なり決算報告を毎年度出していますが、その部分とこの地域づくり協議会が求めている地域福祉の概念をもう少しまとめないと、かなり混乱をきたすのではないかと思っています。地域福祉は今まであまり関心のない部分でしたが、地域づくり協議会ができたことでかなりアップしている地域もあると思います。従来やってきたこととの区別がどのようについているのかが不安材料です。

平成12年に法改正がありまして、地域福祉はそれぞれの社会福祉協議会がやりなさいということで法的な位置づけになっています。したがって、地域づくり協議会と言ってもおそらく地域福祉のジャンルと重なる部分が当然出てきますので、お互いに協力して進めていけばいいのではないかなと思っています。例を挙げると、例えば防災にしてもそうなのですが、支えあいマップというのを作っていました、自治会ごとに防災組織を立ち上げておられます。そのなかで防災弱者と呼ばれている人達と歩くような地道な作業をしていますが、その部分は自治会さんと地域づくり協議会さんと一緒に、お互いに出来ることはやっていくということで進めたほうがよいのかなと思います。

#### <F委員>

まず、協議会のネーミングをもっと楽しくしたらしいなと感じました。秋穂地域の「たのSEA」というのは本当にいいなと思います。先ほどの委員さんと重なりますが、何人の人が関わったのか、2年目と1年目の比較をすることが大事なのかなと思います。そういういた部分で同じ分野の事業をする、特に思うのが子育て支援、三世代で関わるとか、お祭りをもっとたくさん入れたら活気のあるまちづくりができるのではないか考えています。そして、21地区の各事業をもっと市の広報がPRしてくださったら（より参加者が増え）、まちづくりの活性化ができるのかなと思います。

#### <G委員>

どこの地域にも、検討するという言葉がありました。特に印象に残っていることは、嘉川地域で地域課題の把握や地域づくり活動への参加者協力者の確保等に苦労しておるというところは全く私も同感です。現段階は、こういうのをやろうと上から決めておいて下に仕事が流れしており、住民の皆さんからこういう課題に対してこういうふうにやろうという段階ではない。これから先、一步一步積み上げていくように勤めなければいけないな、と思いました。

#### <H委員>

実際に事業を進めておる者の発言としては、皆さん方とちょっと違うと思います。やったことを批評するのは簡単であっても、実際に進めるということになると大変に苦労

するということです。地域課題の把握、活動の計画立案、予算の編成と執行、参加者の確保、人材の養成そういったことに非常に苦心しているというのが実情であります。皆さんの発言を聞いているとあまり認めてもらえてないのだなという気がしてなりません。私のところは30数項目の事業を展開しているのですが、私は毎日地域づくり協議会の事務局についているというのが実情です。一つのものだけについているのではなく、いろいろなことに顔を出しているので大変です。しかし、それでも地域が喜び、地域が発展し、あるいは地域づくりが進んでいけばいいかなということで、生きがいを感じながらやっています。その辺をどのように将来もう少し地域的に拡大し、皆で参加できる、それこそ協働の事業になるようにもっていくかが唯一の悩みです。

それからもうひとつ、従来からあった事業との関係、また、今まで福祉は福祉、地域づくりは自治会連合会の仕事というように全く別であったが、やっと一緒になったということにメリットがあると思います。よって、支援マップを作る問題にしても、一致団結して今からやっていかなければならないという問題であろうかと思います。もうひとつ、各地区に公民館活動というのがあります。公民館活動については、教育委員会の方から予算が出ています。そうすると、向こうで出す予算とこっちで出す予算と両方から出すというわけにはいかないので、困っています。私のところは、従来の公民館活動が立派に栄えておるので、それをつぶしてはならないという立場です。それを側面から応援する、あるいは発展させたものへ多少予算を注ぎ込むというようなことはあってもいいと思います。しかし、現時点では地域が一体となって、何もかも全部ひっくるめた地域づくり活動というスタイルにはまだなっていません。今からしていかないといけないのだろうと思います。

#### < I 委員 >

概要について、22年度と内容を比較してみまして、金額だけはパーセンテージで出ていました。合わせて、内容まで載せていただけるとより良かったのではないかという感想をもっております。

#### < J 委員 >

私の地域では、先程話がでてきました法定外について、希望が多く積み残しがかなりあります。私も法定外ですぐ直していただかないといけないところがあり申請しているのですが、いつになるのか分からぬ状況です。

#### < K 委員 >

地域交付金の活動事例をいろんな地域の見させていただいて、私が今活動している地域づくり協議会も振り返りのようにして見ました。このデータの中にどれだけの参加があったかというところが、どこの地域も出てないかなと思います。やはり、こういう行政の行事をするというのは、参加したことがある程度の成果になっていくのかなと私は思っています。そういうところも出していただいたら良かったかなというのがひとつで

す。

それと協議会運営について、事務局の方も初めてのことをたくさんされているので大変な業務があると思います。ただ、全体的に約30%を運営費、人件費にあてていらっしゃったのですが、そのあたりを疑問に思います。

まちおこしは、お祭りすれば住民がひとつになるのですが、私の理想は、経費がかなりかかりますが、南部なら南部が一緒になって一つの大きな祭りが出来ないかなと常に思っております。それと、私もやって思うのですが、参加者の顔ぶれはいつも同じ人ばかりです。かなり裾野に広げるためには、かなりの時間もかかります。運営協議会については、参加することは誰でも出来ますが、普通の人はなかなか入れません。企画運営することは、協議会の中にはフリーでは入れないことは一つのネックだと思います。どうして一般の人が入れないのか、よそ者は入れないというような地域性がまだまだ山口市の中にもあるのかなと思います。私は、それなりにいろいろな人を引っ張って、参加はしてもらっているつもりなのですが、なかなか参画まで到達しないということを感じています。

#### <L委員>

今の地域に引っ越してきて、地域のことをもっと知りたい、もっと溶け込みたい、という思いで地域の団体に入っていました。その関係で地域づくり協議会の一員になりました。こうして今冊子を見ますと、これだけ21地域が頑張ってやってらっしゃると、今に山口市は日本一の市になるじゃないかというような気がしないでもありません。しかし、これを作るために、多少上乗せしている部分もあるとは思います。そこで、やはり参加人数がどのくらいあったかというデータも欲しいなと思いました。

そして、21地域各々頑張っているのですが、いいところを提供し合うかたちに持つていけたら、もっと素晴らしい山口市全体の活性化に繋がるように思いました。

#### <M委員>

活動事例集について、地域づくり協議会の活動は、活動自体の目的を徹底して、それが効率的に達成できたかというのも大事です。しかし、何人の人間が参加したか、参加者がどれだけ充足感をもって帰ったか、毎回できるだけ参加人員を増やそうとしているか、これが一番大事かと思います。続いて、概要ですが、大事なことは透明性と周知性だと思います。ですから、その地区の全員の使い方に関する評価、反省というのも合わせて報告書に付けるようにすれば多少改善されるだろうし、一般的な共感も得られるだろうと思いました。

#### <N委員>

コミュニティの人達は、普段やらなければいけないことをたくさん抱えておられて、従来の事業を遂行して地域住民の安心安全、そして活性化の事業をするだけで手一杯という現状があります。その事業の中で、今後継続していくべき事業がたくさんあると思

います。目指すところは、既存事業の目指すものを提示していただいて経過を報告してもらい、新たな事業にも取り組んでいただくことです。その新たに取り組まれた事業がイベント的に終わらないために、そのときの効果を今後どう地域に活かせるかという報告を入れられたら、新しいものと従来のものとの区別がつくのではないかと思います。

先程から数字数字と言われていますが、私は地域活動を7年間全部統計をとっています。その中で最近統計というものの落とし穴に気が付いて、数字は行政への報告のために必要なもので、市民の方に数字を出したところで、果たして「すごい、これはいいものだ」と言えるでしょうか。それは、政治的な運営においての決めることだと思います。例えば、子どもが少ない地域で子育て支援の事業をやったとして、10人参加しても数字で見るとすごく少ないので。ですが、来た人達はすごく喜んで、これだけ家族で楽しめるなら移り住みたいなと思う人も出てくるかもしれません。ですから、事業の内容を数字ではなく、どのようなことをやってどういう人達が取り組み、どういうものを発見できたか、そういうところに重点を置いたほうが市民の方も分かりやすいと思います。数字で左右され始めているのはテストの点からだと思いますが、皆さん危険な落とし穴にはまらないようにしてもらいたいと思います。

それから、各地域リーダーの研修制度を設けられたらどうでしょうか。また、各地域のリーダーの方々の意見交換の場、リーダーだけでなく副リーダーの方もいるので、いろんなかたちで全体が研修できる場を、地域マネージメント講座というものを取り込んでいただきたいなと思います。

また、実際にコミュニティで行われている事業を、足を運んで見られた方はいらっしゃるでしょうか。委員をやっていらっしゃる方はどの地域でも良いので、せめて2地域くらいは、事業に参加し、その土地での地域づくりを体験してもらいたいと思います。地域ごとに格差はありますが、どの地域も一生懸命です。それを数字だの、こういうかたちでしか出来ないのか、というのは現場を見たらとても言えません。皆が協働のまちづくり条例に基づいて、まちづくりを進めていければいいと思っています。

#### <○委員>

それぞれの地域の状況をこれから読むというのは、非常に読みづらかったです。昨年は、もっとごちゃごちゃしておりました。昨年より量は少なくなったけれど、それだけ情報量が減りました。昨年は、事業ごとに小さい金額が書いてあったと思います。私は、地区ごとに集計を出して、ここにいくら使っている、ここが多いのはこれに使っているのか、ということをやっていました。今年はそれがないから読むのは楽だったが、それだけ状況が分かりにくかったです。そこで、だいたいどこもやっているような事業というのは2~6の枠のなかに入れたらよいと思います。例えば運動会や祭りというのは、何か特別な目的を持っている場合は例外ですが、だいたいこというように決めれば、交付金の使途が読みやすくなるような気がします。でないと、去年との比較、事業ごとの比較は、どれほど意味があるのだろうと考えました。

先程からいろいろな地域づくりの話が出ました。私も地域づくりに関わっている一人

なのですが、今年で5年目です。正直、どんな成果があったか見せてほしいと言われても見せるものはありませんというのが正直なところです。数年やったくらいでこんな成果が出ましたということはないのでしょうか。人がよく集まつたからと、その事業は本当に意味があったのか、ということも考えてみなければいけない気がします。

指導を受けながら地域づくりを進めています。昨年と一昨年は地域づくりセミナーをやりました。それをやって、地域づくりは、何かこんなことだというものがあるかといううとないのです。一昨年、ふれあい農園をつくって皆が集まつていろいろな野菜をつくり、菊の花をつくりました。ところが、今年地域づくり計画の住民座談会というのをやりました。その時に思ったのは、意見集約に対する住民のアレルギーは非常に薄くなつていて、意見がたくさん出てきます。目に見えない地域の力が少しづつ育っているのかなと思います。

地域づくりがどんなものか、あちこち視察に行って分かったことがあります。先日、北九州の赤坂地域コミュニティへ行きました。先に社会福祉協議会ができて、そして地域コミュニティができたということでした。非常に驚いたのは、公民館活動いわゆる生涯学習を行う公民館、社協と地域コミュニティの間にほとんど壁がありませんでした。ひとつの行事に対してそれぞれできるところを担当し、会計は区別して報告しなければならないようでしたが、一緒にやっている姿を見て、山口もこんなふうにすればいいのだなと感じました。

地区社協という話が出ましたが、旧町の支部はかなり充実していると思うのですが、山口の中の一地区社協は活動がマンネリ化している。むしろ、市のほうから全部枠組みを決められてきて、自分達が地域をこうしようというかたちがなかなか現れていないのが、私の地区の実情です。

それと、山口市の全小中学校は、今年からコミュニティスクールの指定を受けて、その取組みをするということです。コミュニティスクールは、地域運営学校、地域とともにある学校、あるいは略して地域運営学校、というものです。地域と学校とが非常に関わっていくのに、私達地域づくりのほうに話がほとんどなく、先日5月の総会の時に市の教育委員会から初めて説明がありました。コミュニティスクールというのは、地域づくりの良い道具だと思っております。これにより、地域づくりで滞っているかなりの部分が、進んでいくのではないかと思います。私のところはおかげさまで、一緒にやりましょう、と校長先生も前向きに考えてくださっています。地域づくりについて、これまで思っていたよりも広い枠で考えていく必要があるのではないかと思います。

#### < P 委員 >

地域づくり協議会が進めている事業を評価することは、地域特性の差がありますので、客観的基準で測るのは非常に難しいと常々思っております。ですから、むしろ各地域の初期状態がどうであったか、そこからどのように変わるのでかということを見たいと思います。とにかく積み上げがどのようなかたちで進んでいるのかが分かるものを作っていくなければならないと思っています。

あと一点、数字にこだわらないほうがいいと言いましたが、運営状況概要について、全体の決算額の平均は9割であるにも関わらず、白石地域は決算が半分以下です。後程、事務局からご説明をしていただきたいと思います。

#### <Q委員>

積み重ねが大事だと思いまして、事例集につきまして、情報収集が難しい中、こういうことをやっていますということを見つけていけたというのは成果だと思います。取組み方は違うのですが、その中でキラっと光るものは、見つけられやすいひとつの材料ではないのかなと思います。数字については、今後も継続して同じようなデータを出していくというのは大事なことです。先程意見がありましたように、重点事業への予算配分をどのくらいにやってきたかなど、そのような情報公開の方法に工夫が少しいいるのではないかでしょうか。21地域それぞれオリジナリティがありますので、逆の見方をして、「こんな地域は面白い」と、飛びついでもらえるようなやり方もあるのかなと思います。

今後も出し方を工夫していきながら、また住民アンケートをこれからどういうふうに各地域が取り込んでいくのか、どこまで出来るのか、が今後求められてくると思います。

やはり、お互いに顔の見える意見交換、どうあるべきか考えていくことが必要になってくるのかなと思います。ある意味、山口市はこういう枠組みがあって進んでいっているだけでも、すごく住みやすいところではないかなと思います。いいところをどのようにしていくかというのも大切だと思いますので、そういう部分で事例集と概要を見ていただけたらいいなと感じています。

#### <R委員>

以前からとにかく地域が崩壊していくスピードに懸念しています。特に農村地区は、運営している方々の自治会組織がいまだもって開かれることなく、予算編成が行われている課題があります。それをどのように若い人たちに開放していく、どのように透明性のあるものにもっていくのでしょうか。少しづつではあると思うが高齢化が進んでいき、後を続ける人達がいなくなるということを心配しています。だからこそ、地域づくり協議会がもっと広い視野で地域外の人にも声をかけていくことが必要です。地域の応援団のような感じでショートステイでもいいですから、そういう人達が出入りできるような場を作り、運営に携わってもらってはどうでしょうか。地域を愛してもらうような人をもっとつくっていかなければなりません。今頑張っている人達がいるから運営が出来ているのですが、良い方向に進むばかりではないのではないかと懸念をしています。透明性と前々から言っていますが、ここ2、3年でどれほど変わったかなと強く思います。やはり同じ顔ぶれであるように感じますし、毎年自治会長さんが変わるというような課題を抱えている地域もあるようです。とにかくコーディネートではないですけれども、ひとつひとつの地域の特徴に合わせたアドバイスが必要なのではないかと感じています。

### <辻会長>

皆さんどうもありがとうございました。いろんな方々の話を聞いていても、今まであった活動と今までなかつた活動について、問題を抱えていることが分かります。その部分が地域づくりの中でオーバーワークになるのか、オーバーワークにならないようにするのであれば、従来の活動のいらないところは削るか何かをしなければなりません。でなければ、年間の中である限られた人員が動いていくわけですから、当然無理があります。従来の中でいいものは残し、新しい時代・新しい体制の中ではいらないところは少し整理することが必要になるであろうと思います。

地域福祉については、社協の活動と地域づくりの活動が一体化できるような形でしていかないといけません。いうならば、縦割りみたい形には絶対にしないで、お互いが近づいていくことが必要です。そして、21地区の中には、町からそのまま地区になった小郡、秋穂、阿知須、徳地、阿東があります。特にその中でも、徳地と阿東はそれぞれ5地区もっていて通常のやり方とは全く違います。旧町は有給専門職が配属されている「〇〇支部」が活動の中心となっているため活動が充実していますが、旧市は地域住民によって構成される「〇〇地区社協」が活動の中心となっているため活動には限界があります。したがって、旧市の地域については、地域づくり協議会による地域福祉事業に一層の期待が集まっています。

私は毎年の地域づくりの中で、今年はこんなことをやってみたい、これが出来ましたとかそういうものが多少はあってもいいのかなと思います。なかには評価しにくいものもあるし、得点化することが難しいものもありますが、前に向かって一歩一歩良くなっていく形に進めばと思います。一番危惧していますのは、後継者をきちんと作っていただくということです。

私の意見は、皆さんの意見を参考にしながら言った部分もありますが、全体的なまとまりとしては昨年度よりは良くなったと思います。ただし、薄くなった部分が分かりづらいので、このような特色があるとか、今年度このくらい出来ましたとか、そんなものを少し付け加えると次年度にむけてより良いものが出来るのではないかなと思います。

### <辻会長>

その他の意見を求める。

### <事務局>

白石の決算額についてですが、昨年度、担当職員と事務局が話し合って市からの交付等使用可能額のだいたい40%しか使ってないということでした。いわゆるこれあげるからこれで使ってちょうどいいというのではなくて、今までの事業も含めて、何を目的に、何を対象に、どういうレベルでやるのか、というところをしっかり考えられた上で、皆さんのが事業に取り組んでこられました。

今年度の予算としては、約8割から9割くらい、皆さんのが提案をされてきて、承認をされました。去年は少し考える期間であったというふうに捉えていただければいいのか

なと思います。

#### < H 委員 >

どのくらいの人数が参加したかというのがだいぶ出てきたのですが、この事業とこの事業と全部ダブっている人もいるし、その区別は出来ていません。そんなことまでは、とてもじゃないがやれません。全体の事業が何千何百人としてもあまりそれは意味がない。ひとつずつの事業にどのくらいの人数が出たかという人数は実績報告で報告してあると思うので、分からることはないと思いますがあまり意味がないと思います。中身が問題だと思います。

もうひとつ、協議会に加わりたいというご意見についてです。それは、各地域づくり協議会の組織の決まりがあるので、一般の人が入ろうと思ったら入れないことは仕方がないと思います。しかし、私のところで言えば、過去の自治会長、経験者、誰でも参加できる仕組みになっています。委員さんがおっしゃったような人がいたら、私はすぐ来てもらって、すぐうちに取り込みます。そういうシステムにしていけば、できることはないと思います。

#### < 社会長 >

地域社会の入り方というのは、知らない人が来たとしても誰だろうかと思うくらいです。しばらくすると、この人はこんな能力を持っているのか、偉い人がきているなど知られると地域がだんだんと離さなくなります。

そこには長年ずっと地元で生まれ地元で育った人、地元で生れたのだけれども 10 年くらい外に出ていたとか、いろんな人が地域社会の中にはいます。解放といったって、例え能力があったとしても、誰もがその中にすんなりと入っていけることはおそらくありません。委員さんが行かれて、この方こういうことしていたよ、などと場の中でだんだんと知られて、その中でお願いしていくというかたちでしかないのだろうと思います。

人間の社会は、いきなり知らない人が来ても警戒してしまいます。長いこと農村社会では鍵を掛けませんが、入ったら、皆に知られます。私達も調査にいくと、さっきあそこにおられましたねと言われ、ドキッとなります。そのくらいのシステムを実は農村は持っているし、都市社会だってお互い見知らぬ関係にするというはある意味ではそれによって防火線を張っています。ですから、地域社会に入るのにはしばらく時間がかかるものとして、そのように考えられたほうがいいかと思います。

#### < 坂本副会長 >

事務局に確認したいのですが、地域づくり協議会という組織そのものを地域で考えてくださいということですので、別に行政がこうしなきやだめですよというものではないとは思います。しかしイメージとして、地域づくり協議会というのはだいたいどこを見ても、団体の連合体という構成員になっていると思います。

だからどこかの団体に所属しないと、しかもその団体が地域づくり協議会に入ってい

ないとアクセスができないのか、そのあたりを確認させてください。

#### <事務局>

今、言わされたとおりだと思います。基本的にはどこかの団体に入っていないとアクセスはなかなかできません。ただ、山口市の場合は自治会連合会というのが83%くらいありますので、約8割の方は何らかのかたちですけども、末端ですけど、構成員になっています。

地域づくり協議会さんは常に意見に対してはオープンにしておくべきだと思っています。そういったかたちで今地域づくり協議会へ組織づくりをしてくださいよというようにお伝えしています。

#### <辻会長>

次の議題「協働推進プラン改訂版（素案）について」、これまでの経緯について事務局に説明を求める。

#### <事務局>

本市では協働によるまちづくりのガイドラインとなる「協働推進プラン」を見直し、平成25年度～29年度分となる「改訂版」を平成24年度中に策定することとしております。策定にあたりましては、策定部会を設置し、地域コミュニティや市民活動団体など、様々なまちづくりの主体の皆様からの御意見を取り入れながら進めてまいりたいと考えておりますことから、この推進委員会の中に部会の設置をお願いし、坂本副会長を部会長として、部会を組織したところでございます。

策定にあたりましては、まずは、まちづくりの主要な主体である、地域づくり協議会と市民活動団体からアンケートにより意見をいただきたいと考え、部会委員の皆様よりご意見をいただきながらアンケートを実施いたしました。そして、アンケート結果や、これまでの協働のまちづくりの進捗状況を踏まえまして部会において作成いたしましたのが、「協働推進プラン（改訂版）」の素案でございます。

#### <辻会長>

坂本副会長に部会での議論、指摘事項についての報告を依頼。

#### <坂本副会長>

事務局から説明はありましたが、改訂のための部会を2回開かせていただきました。事務局からたたき台を準備していただき、意見を言ってまいりました。それで、今お手元にあるのは、それを反映されたものです。第2回の策定部会の時にあった意見は、基本的に全て反映されているということです。どんな意見があったかというのを少し紹介します。個別の話になりますが、1点目は地域づくり協議会が実施されるイベントの参加募集についてです。その地域だけではなく、他の地域にも案内をする、そういった協

議会の仕組みが必要ではないかという意見。

2点目は、それぞれ地域事情は違うと思うが、お互いにいいところを学び合う場、地域づくり協議会の方々による連絡協議会といった組織が必要ではないかという意見。

3点目は、市民活動団体の方についてですが、協働のまちづくりにより参加していただくために市民活動団体に対していろいろと行政の事業について情報提供をしていくことがもっと必要ではないかという意見。

4点目は、地域づくりについて地域事業を反映した個性の部分と、どの地域であってもある程度共有すべき部分と、その辺を整理したような手引きあるいはマニュアルがあってもいいのではないかという意見。

5点目は、協働に関して、コミュニティスクールについて話が出ましたが、推進プランの中にも教育機関に役割をもっと充実させてもよいのではないかという意見。

6点目は、山口市の新しいまちづくりに向けたプロセスについて、10年間かけてゆっくりと進めていくというものがあります。その中に、市の方で今検討されている地域活性化センターを記載したほうが良いという意見。

最後になりますが、このプランは、前回のものに比べるとスリム化を図られています。役員の方々は熱心に見るだろうが、なかなかこれを一般の方が見るだろうかということで、もっと簡単な一般用のパンフレットのようなものがあってもいいのではないかどうかという意見もありました。

#### <辻会長>

協働推進プラン改訂版（素案）について事務局に簡単に説明を求める。

#### <事務局>

協働推進プラン改訂版（素案）の概要について説明

- ・目指す地域社会の姿や協働のまちづくりについて記載した「第1編：本編」と各年度の具体的な取り組みを記載した「第2編：実行計画」の2部構成となっています。
- ・「第1編：本編」については、協働によるまちづくりの理念は変わらないので、大きな内容変更は行いませんが、重複した内容についてはスリム化するとともに、平成22年度に決定した協働のまちづくりキャラクター「キョードーレッド」を活用し、見やすい紙面づくりを意識しました。
- ・実行計画については、これまでの協働推進プランが24年度までのものであることから、25年度から29年度までの実行計画を新たに作成します。これまでの事業は進捗状況を整理し、完了、廃止した事業を除いた継続事業に、アンケート結果やこれまでの各種協議の中で寄せられた意見をもとにした新規事業を加えたものを掲載しています。

#### <辻会長>

素案の今後の取り扱いについて事務局に説明を求める。

	<p>&lt;事務局&gt;</p> <p>今回、協働推進プランの部会の素案につきましては、「中間案」として、市民の皆様へのパブリック・コメントを実施したいと考えております。</p> <p>また、推進委員の皆様におかれましては、ボリュームもございますことから、じっくりと見ていただき、ご意見がございましたら、電話、メール等どのような形でも結構ですでのでいただきたいと存じます。</p> <p>その後、パブリック・コメントの結果と皆様の意見を踏まえながら、最終案の作成に取り掛かる予定でございます。</p>
	<p>&lt;辻会長&gt;</p> <p>議題4 「その他」について、事務局より何かありますか。</p>
	<p>&lt;事務局&gt;</p> <p>今回の作ったところの意図は、皆さんに読んでもらいたいというところが大前提にあります。ですから、実はキョードーレッドが話している（吹き出しの）部分を読んでいただければ、ある程度分かるようにしているのが、今回のプランの大きな特徴であると思います。</p> <p>皆さんに意見をいただきながら最終的には3月に向けてよりいいものに今から成熟させていきたいと思います。</p>
	<p>&lt;N委員&gt;</p> <p>この推進委員会の中で、協働推進プランを協議する場は設けられないのでしょうか。</p>
	<p>&lt;事務局&gt;</p> <p>もう一度協議の場をこの委員会で持つということは出来ると思いますが、基本的には、部会の中で話し合っていますので、そこで出てきたものを説明させていただいた上で意見をくださいという形式にしています。</p>
	<p>&lt;辻会長&gt;</p> <p>本日の議題は、以上となっております。</p> <p>事務局にお返しします。</p>
	<p>&lt;事務局&gt;</p> <p>終了の挨拶</p>
会議資料	レジュメ

	平成23年度地域づくり交付金制度について 平成23年度地域づくり交付金実績 平成23年度地域づくり交付金活動事例集
問い合わせ先	地域振興部協働推進課活動支援担当 TEL 083-934-2763

